

JRA-VAN 競馬ソフト作成体験教室

・開発環境を整備する

当コーナーでは、「JRA-VAN Data Lab.」サービス対応の競馬ソフトを作成していくための環境設定を解説していきます。

ここでは、「JV-Link」を Visual Basic6.0(以下 VB6.0 と省略)で使用できるように環境設定を行ないます。

なお、当コーナーで使用している環境は Visual Basic6.0 SP5(Professional Edition)です。そのため、画面等がお使いの環境と多少異なる場合がございますので、予めご了承ください。

【 今回の目標 】

プロジェクトで JV-Link を使用できるように設定する。

【 やってみよう 】

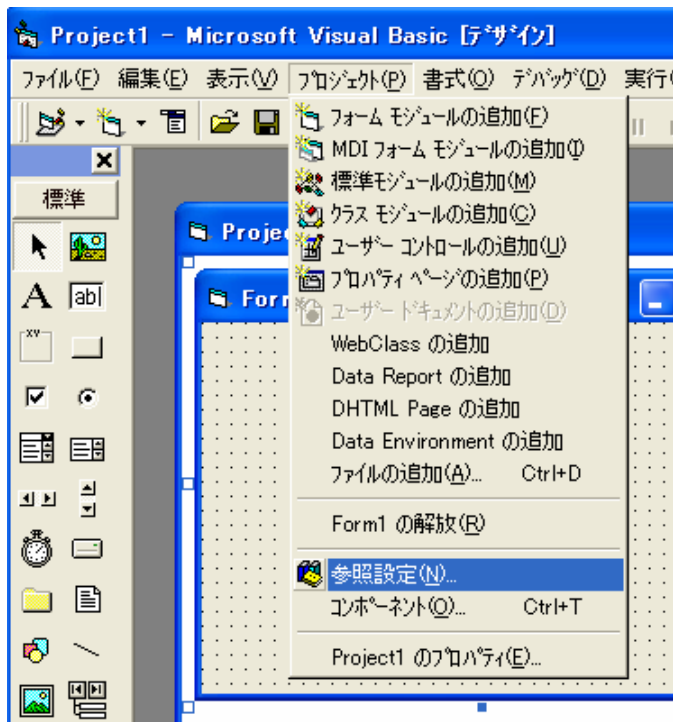
JV-Link をコントロールに追加しよう

VB6.0 を起動する。

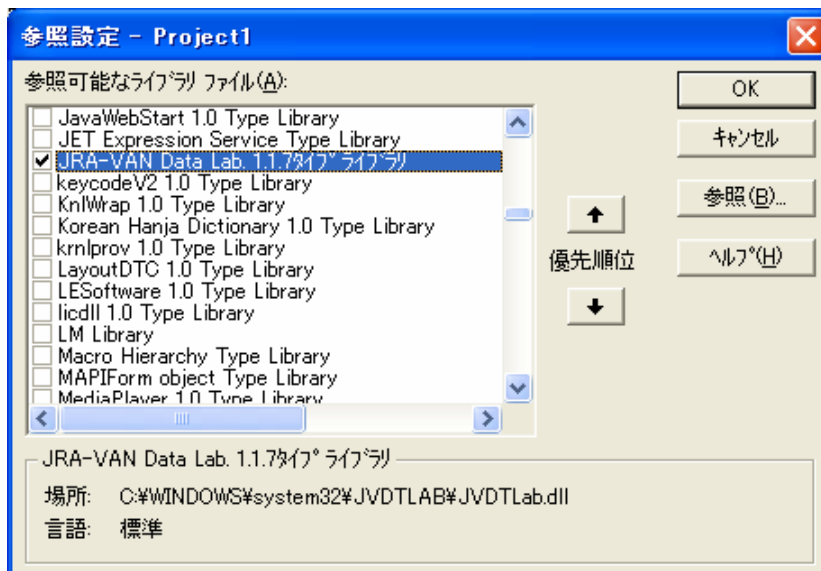
新規作成の「標準 EXE」を選択し「開く」をクリックする。



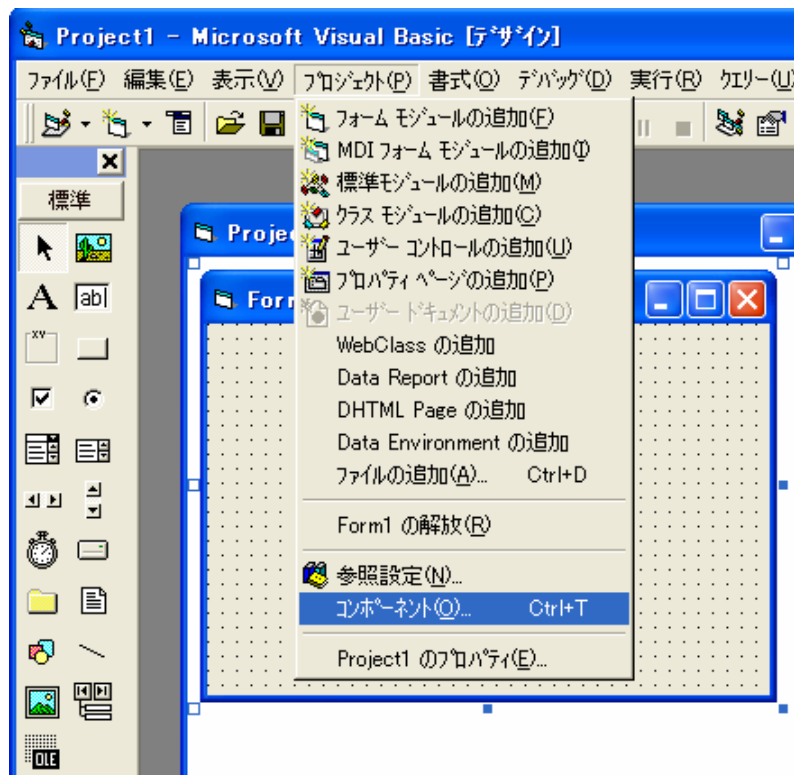
メニューの「プロジェクト」「参照設定」を選択する。



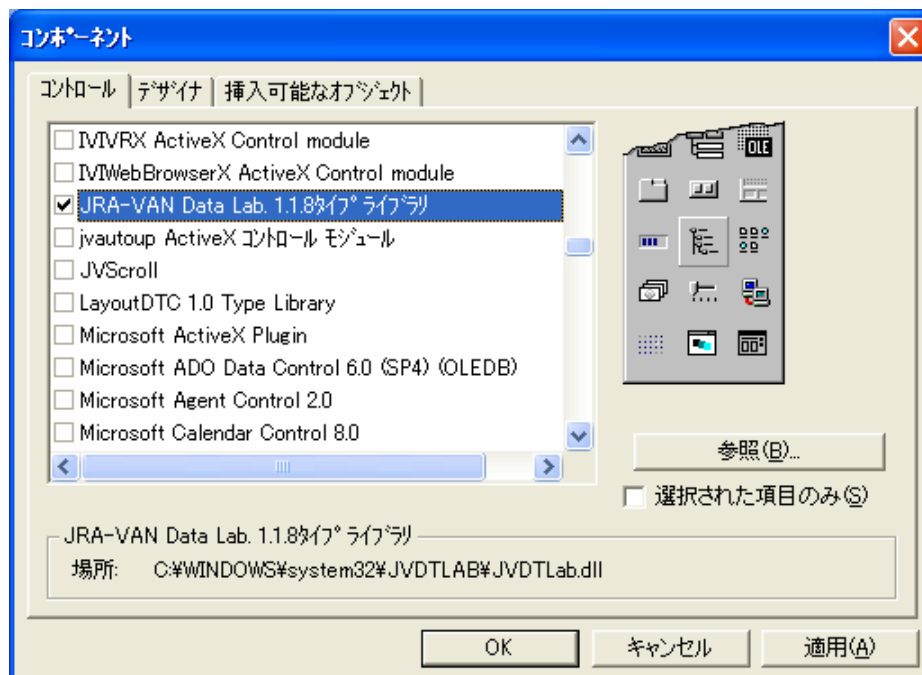
参照可能なライブラリファイルの「JRA-VAN Data Lab. x.x.x タイプライブラリ」にチェックを入れて「OK」をクリックする。



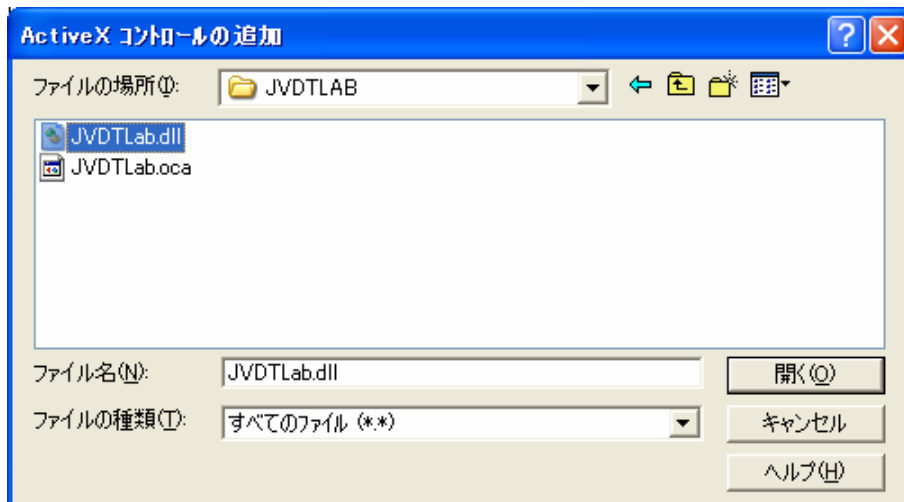
メニューの「プロジェクト」「コンポーネント」を選択する。



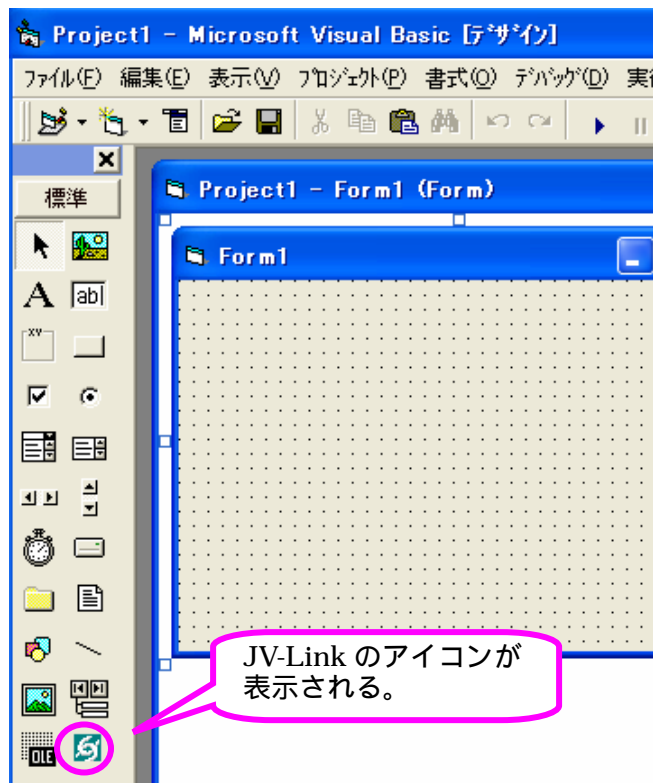
コントロールの「JRA-VAN Data Lab. x.x.x タイプ ライブラリ」にチェックを入れて「OK」をクリックする。



注)お使用の環境によっては、「JRA-VAN Data Lab. x.x.x タイプライブラリ」のチェックボックスが表示されない場合があります。その場合は、上図の「参照(B)」ボタンをクリックして、「JVDTLAB」フォルダ下にある「JVDTLab.dll」を直接指定してください。なお、ファイルの種類を「すべてのファイル(*.*)」にしないと「JVDTLab.dll」は表示されませんので、ご注意ください。



画面左のコントロールに JV-Link のアイコンが表示されたことを確認する。



【 確認しよう 】

フォームに JV-Link を貼り付けることができれば、今回の目標は達成です。

